

# 令和3年度学校自己評価システムシート（県立特別支援学校さいたま桜高等学園）

目指す学校像	1 生徒一人一人の主体的な学びを通し、持てる力を最大限に発現できる教育実践に取り組む学校 2 生徒一人一人の社会で生きて働く力を着実に育み、一般就労の実現と職場定着の向上に取り組む学校
--------	---

重点目標	1 生徒一人一人の能力や特性を踏まえ、生きて働く力を確実に高めるため、主体的・対話的で深い学びの授業改善を推進し、更なる授業力の向上と就労支援の充実を図る。 2 生徒一人一人の調和のとれた心と身体づくりに取り組み、生徒自身の自己肯定感の向上を図る。 3 教職員一人一人が持ち味を生かしチームとなって、地域との連携・協働した活動の推進に取り組む。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )		
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○ 研究2年目となり、全校研修、授業研究会を通じて「主体的・対話的で深い学び」についての共通理解が深まり、授業実践も向上している。また年間指導計画、通知表を昨年度、新学習指導要領に対応する様式に改めた。進路指導ではコロナ影響により実習等計画の中止や見送り等があったが、校内研修、進路会議等を実施し、生徒の適切な進路選択を行うための教職員のスキルアップに繋げた。 □ 教職員の学び合いをさらに深め、新たに導入されたICT環境や年間指導計画等を活用し、生徒の生きて働く力を育成するための「主体的・対話的で深い学び」の観点に基づく授業改善を推進するとともに、生徒一人一人の進路を実現するための授業内容を整備し、様々な状況下にも対応しうる就労支援の体制等を整備する必要がある。	・ 一人一人の生徒の能力や適性を踏まえながら、生きて働く力を高めるための授業力向上と就労支援の充実を図る。	① 全校研修、校内授業研究会等を実施し、ICT機器等を活用した主体的・対話的で深い学びの観点に基づく授業改善を行うとともに、3校学び合いを通して教職員の学び合いを深める。 ② 校内研修や外部専門家の指導・助言を通して、生徒のアセスメントスキルの向上を図るとともに、コロナ禍においても状況に対応した適切な進路指導を実施する。	① 3校学び合いや教職員間の学び合いを深め、主体的・対話的で深い学びの観点に基づく授業改善を行ったか。 ② 教職員一人一人のスキルアップが行われ、コロナ禍においても適切な進路指導が行えたか。			
2	○ 昨年度、コロナ禍において行事等、従来の生徒が活躍できる場が激減したが、改善チェックシートの活用や「明日へStep」の活用が定着しつつあり、生徒の課題認識が深まっている。さらに自身で課題解決に取り組めるよう「明日へStep」の見直し、改善を行った。また新日課によって確保された時間を有効に活用し、教職員が生徒一人一人と向き合う時間が増えたことで生徒の自己肯定感や意欲の向上に繋がっている。 □ 生徒・保護者・教職員との情報共有を確実にし、自立活動や特別の教科道徳との関連も踏まえ、外部専門家等と連携しながら生徒一人一人が課題改善に向けた取組を行い、自己肯定感を高める指導を充実させる。	・ 生徒、保護者、教職員が確実に連携して教育的ニーズ等を把握し、調和のとれた心身の伸長を図りながら、生徒の自己肯定感を高める。	① コロナ禍における行事等の実施方法を検討し、生徒の活躍の場を確保する。また保護者と連携し、生徒本人がチェックシート、改善した「明日へStep」を通して生徒一人一人が課題改善に向け取り組めるよう指導を行う。 ② 教職員が生徒一人一人と向き合い、外部専門家等の助言も活用しながら教育的ニーズを把握し、生徒の自己肯定感を高める指導を行う。	① 生徒の活躍の場を確保できたか。また生徒一人一人がチェックシート、「明日へStep」を活用して課題の改善、解決に取り組むことができたか。 ② 生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、生徒と向き合いながら自己肯定感を高めることができたか。			
3	○ 昨年度も高校支援や外注による製品作成が大きな評価を得たが、コロナ禍においてPTA組織との連携をはじめ、従来の連携・協働が困難な状況にある。また昨年度、事案等に応じて会議等の時間を活用し、各主任を中心に課題解決に向け取り組むなど、チームとしての対応を通じて組織力が高まっている。 □ コロナ禍における連携・協働の具体的な方策を検討、試行しながら生徒の実態等に応じた持続可能な連携・協働の在り方を模索する必要がある。またその時々状況におうじながらも高校や企業支援を推進し、センター的機能を充実させるとともに、外部専門機関等と連携しながら、組織の力をさらに向上させる。	・ 共生社会を推進するためのセンター的機能の充実を図る。	① 積極的に情報発信を行いながら地域等のニーズを把握し、コロナ禍における連携・協働した具体的な取組(各学科の活動、高校支援、企業支援)を模索し、実施する。 ② 外部専門機関等と連携を図りながら、チームを編成して情報共有を確実にし、課題解決に向け組織的に取り組む。	① ニーズを的確に把握して連携、協働の具体的な取組を模索し、実施できたか。 ③ チーム編成と情報共有を確実にし、組織として対応できたか。			

学 校 関 係 者 評 価		
実施日	令和	年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等		